



看護部通信



2023年3月

定年退職される皆さま お仕事を無事勤めあげられますこと、心よりお祝い申し上げます。
常に前向きな姿勢と面倒見の良いお人柄で、周囲に安心と勇気を与えてくださいました。
共に働き、勉強させていただけたことを光栄に思います。
これからの人生がますます実りのあるものとなりますようお祈りいたします。(看護管理室)

ありがとう
ございました!

「お世話になりました」 S. A

一抹の寂しさはありますが、今は無事に定年を迎えられることに、安堵の気持ちでいっぱいです。これからは自分の自由な時間が持てるという、喜びも少しあります。これまで出来なかったこと、やりたかったことに色々とチャレンジして第二の人生を楽しみたいと思っています。

また、定年まで働くことが出来たのは、皆様の温かいサポートがあったからだ感謝しております。
これからはリハセンの更なる発展と、ご活躍を陰ながら応援していきたいと思っています。ありがとうございました。

「感謝の気持ちでいっぱいです」 A. K

私は、2007年に太平療育園（現：医療療育センター）から異動となり、精神科・リハ科・外来・デイケア・認知症病棟を経験させていただきました。

皆さんからは、温かく心こもった「千羽鶴」を頂くような事態もあり、大変なご迷惑をおかけしたものでした。それでも、どの部署に配属になっても、明るく受け入れていただきました。同じ部署で勤務できなかった方、私を知らない方もたくさんおられると思いますが、すれ違ったことはあったかと思えます。リハセンは「すれ違う時の気持ちの良い挨拶」が自慢だと思います。特にこの1年は、ほぼ全員の方が私より年下で「めんこいな」と思っています。退職を間近にし、つくづく「科が違っても看護の基本は変わらない」ことを強く感じています。定年まで働くことができたのは、皆様のお陰だと心から感謝しております。本当にありがとうございました。

「定年退職に向けて」 S. S

振り返ると、私はリハセンに異動となり回復期リハ病棟に配属されました。最初に感じたのは皆さんの笑顔と「挨拶」がとてすてきだったことが印象に残っています。4病棟では多職種のチームで看護を行い、和やかな雰囲気の中で楽しく勤務させていただきました。

7病棟では認知症看護の難しさを感じながら、その人らしく関わりを持って介入することの看護が楽しくなりました。私はやっぱり「看護が好き」なんだと感じています。褥瘡対策に関わることで自分が成長できたことは言うまでもありませんが、たくさんの方々からのご支援やご鞭撻をいただき、無事に定年を迎えることができましたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ありがとうございました」 W. A

リハセンで働いてから長い年月が経ちました。当時3歳だった娘は、二人の子の母親となりました。辛いこともありましたが、今では全てが懐かしい思い出です。
看護師に向いていないと思っていた自分が、これほど長く働くことができたのは、ひとえに周りの皆さまの支えによるものと、心から感謝しております。
これからは自由気ままに、のんびり、ゆっくりと余生を楽しみたいと思います。長い間お世話になりました。